

MACF礼拝説教要旨
2023年5月28日
「聖霊が降ると」

使徒言行録

1章

6さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。7イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。8あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」9こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。

2章

1五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、2突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。3そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。4すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

・ ・

7人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。8どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。9わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、10フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、11ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

ペンテコステとはギリシア語で「50日目」「50番目の日」の意味です。

旧約の過越(すぎこし)の祝いから50日目の日、この日は春の収穫感謝祭「五旬祭」ですが聖霊の降臨を記念する五旬祭、聖霊降臨祭をさす語としても用いられるようになりました。

クリスマス・イースター・ペンテコステは、それぞれに大切な意味のある日として心に留める必要があります。

ところで、聖霊が降るといふのは、どんな意味があるのでしょうか。

使徒言行録からみていくと

1章8節「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」とあり「イエス様の証人としてのチカラを提供してくださる存在がそれぞれの心に留まってくださる」ということになります。

弟子たちは、多くは文盲だったと言われていました。

本を書いて残すということはできなかったでしょう。

でも彼らの心はイエス様からの愛、イエス様への愛で燃えていて、どうしても、イエス様のなされた事柄、教えた事柄を伝えたい心に燃えていたのです。しかも人間の記憶力によってではなく、聖霊の助けに促されて。

さて、イエス様は聖霊について、どう教えていたのでしょうか。

ヨハネによる福音書の中にたくさん記録が残されています。

いくつかみてきます。

ヨハネによる福音書14章

15「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。

16わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。

17この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。

しかし、あなたがたはこの霊を知っている。

この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。

**

26しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。

**

15章

26わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。

27あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

16章

7しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。

わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る。

8その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。9罪についてとは、

彼らがわたしを信じないこと、

10義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなること、11また、裁きについてとは、この世の支配者が断罪されることである。

12言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

13しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。

その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。

14その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。

15父が持つておられるものはすべて、わたしのものである。

だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

聖霊は、私たちにとって「イエス様と同じ質を持ち、同じ愛を持っている

弁護者、慰め主、真理を示してくださるお方」です。

そして

- 1) わたしたちと永遠に共にいてくださる。
(イエス様が共にいてくださることがわかるようになる)
- 2) 真理の霊として神様の真理を示し続けてくださる
- 3) イエス様の教えを思い出させてくださる
- 4) 私たちが知る必要のある事柄をことごとく教えてくださる
- 5) イエス様について証しし、イエス様の心をわからせてくださる
- 6) 「罪」「義」「さばき」について私たちの誤りを示してくださる

そして、それらの事柄はおそらく勉強という形でなく「気づき」という形で私たちの心にもたらされると思います。

パウロは若いテモテにこう書きました。

テモテへの手紙第二章6節～

6 そういうわけで、わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えたとさせるように勧めます。7 神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。

8 だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません。むしろ、神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください。

**

つまり、聖霊が与えられたという別の側面は私たちが「力と愛と思慮分別の霊」を受けているという自覚をもって生きるべきことが進められているのです。

聖霊は証者としての力を与え、必要な情報を心の中に思い出させてくださいますが、それによって高慢になったり、力を誇示したりすることなく

「愛と思慮分別」をもって生きられるように「寄り添って」くださるために遣わされたのです。

考えてみると、至れり尽くせりという感じがします。

そこに神様の深い愛の配慮を感じます。

**

礼拝映像は

<https://youtu.be/wwqlzHgTOWQ>